

名古屋大学医学部附属病院

2026年度採用研修医募集

万全の
サポート

多様な
キャリアに対応

最先端の
医療経験

名大病院は、「プライマリ・ケア能力の習得」という研修理念の実現に向けたプログラムを提供しています。
また、メディカルxRセンターなどの教育設備を充実させ、初期研修だけでなく、医師の生涯にわたるキャリア形成をサポートしています。

I 名大病院の臨床研修の理念と基本方針

理 念

名古屋大学医学部附属病院では、医師としての人格をかん養し、患者を全人的に診ることができ、かつ、高水準の医療の提供や将来の医学の発展に寄与することのできる医師を育成する。

基 本 方 針

- ― プライマリ・ケアやチーム医療の実践等、全ての医師が身につけるべき基本的臨床能力の修得をサポートする。
- ― 地域の協力施設と密に連携して、その時代の地域社会・患者のニーズに柔軟に対応する能力を育成する
- ― 学内外研究者とも連携して、新しい医学・医療を開拓していく研究マインドを育める場を作る。
- ― 興味や志望する領域、将来のキャリアパスなど研修医の個別的志向へ柔軟に対応していく。
- ― 指導医、看護師およびその他の医療従事者をはじめとする病院職員全員が研修医教育に参加する。

II 名大研修の強み

1 多くのスタッフが研修医を支援

卒後臨床研修・キャリア形成支援センター所属で各診療科に配属された若手の教員（教育専任教員）が診療の指導を行うほか、事務職員も含めた多くのスタッフが、進路や研修プログラムのアドバイス、研修の悩みやいろいろな相談ごとに対応します。

2 卒後臨床研修・キャリア形成支援センターが研修プログラムを管理：非入局スーパーローテート方式

初期研修医は、医局に入局せず卒後臨床研修・キャリア形成支援センターの所属で、各科ローテート研修を行います。
興味や志向性をもとに柔軟に進路を選択することができます。

3 総合診療能力を養うことができる充実のプログラム内容

総合内科、家庭医療、救急医療、高齢者医療、周術期医療（麻酔科）など総合診療の多彩な専門家が研修医指導を行います。
当院の総合診療の専門家は、同時に医学医療教育の専門家でもあります。

4 充実した各分野の専門家

各分野の専門家が多いのが大学病院の強みです。日常診療で生じる疑問について直接その分野の専門家にきくことが可能です。

5 研究医を含むさまざまな進路に対応

将来研究医をめざす方には研究をしながらの研修や社会人大学院生になりながらの研修なども選択することができます。
その他にも、医療安全や医学教育、リハビリテーションなど様々な進路で活躍できる医師を養成しています。

III 第三者機関による臨床研修評価の認定

名大病院は、2011年に第三者評価機関である卒後臨床研修評価機構（JCPE）から質の高い臨床研修病院として認定を受けました。2023年には更新調査を受審し、研修体制と研修プログラムが引き続き優良であり、臨床研修の質が維持されていると認められ、4年間の更新認定を受けました。



IV メディカルxRセンター

VR技術を中心とした医工／産学連携・教育研究センターです。全体を「ミュージアム」とするコンセプトで整備を進めるとともに、サイバー上にも当センターも構築してデジタルツイン化を進めています。フィジカルなセンターでは、医師、看護師、臨床工学技士など、さまざまな医療職に対して、実技トレーニングのほか医療機器に関する教育が行われていますが、この一部をサイバー空間のセンターで行う試みを始めています。フィジカルなVR診療シミュレータとしては、手術、血管内治療、超音波検査、内視鏡検査などがあり、研修医の皆さんも指導医とともに実技トレーニングに利用できるほか、フィジカル＆サイバーの「ミュージアム」で未知の体験が可能と思います。全国の大学に診療実技のトレーニング施設としてスキルスラボが整備されており、当センターもこの機能を包含していますが、当センターは他のどこにも無い「おもしろい場」を提供しています。

●メディカルxRセンター <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/mxr>



V 全国最大規模の研修病院ネットワーク「名大ネットワーク」

全国最大規模の研修病院ネットワークである名大ネットワークは、学生や研修医のニーズを満たす質の高い臨床研修を実現し、生涯サポートし続けていくため、関連約65病院と定期的に意見交換などを行っています。また年に2回程度名大ネットワークキャリアセミナーとして、様々なキャリアをお持ちの医師からお話を聞く機会を作っています。

●名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク（名大ネットワーク） <https://med.nagoya-u.ac.edu/mnw/>

VI 後期研修・専門医養成

名古屋大学では従来より、卒前から卒後に至る一貫した臨床医学教育を実現するために、「総合医学教育センター」を設置しています。2008年度からは、初期研修後の専門医育成も支援するために、「卒後臨床研修・キャリア形成支援センター」として機能充実を図り、研修サポート体制を拡充しました。これにより、名大研修の特徴である関連病院と密接に連携した質の高い臨床教育をより円滑に推進できるようになりました。すなわち、2年間の初期研修のみならず、後期・専門研鑽のキャリアパス整備の推進とキャリア形成の積極的支援など、後期研修や専門研修においても、病院として責任を持った体制が確立したと言えます。

VII 全国屈指の大学病院

名大病院は、1871年に設置されて以来、医療をリードしてきました。1995年には、厚生労働省から「特定機能病院」として承認され、東海地区の拠点病院として地域の医療に貢献するとともに、全国屈指の大学病院として医療の高度化に日々取り組んでいます。

■病院データ

診療科数	病床数
34	1,080床 (一般1,030+精神50)
年間入院患者数	年間外来患者数
287,422名	512,100名
年間救急車受入数	年間救急医療受入患者数
2,112件 (うち診療時間外 1,232件)	6,113名
年間手術数	
9,730件	

※年間データは2023年度の数値

■研修医の処遇・待遇

所 属	卒後臨床研修・キャリア形成支援センター
身 分	医員（研修医）：非常勤
給 与 研 修 手 当	諸手当（研修奨励手当、超過勤務手当等）を含めて月額約35万円程度 休日手当は支給しない。
勤 務 時 間	8時30分～17時15分（休憩時間：60分）※ 週38時間45分勤務。 ただし、ローテート期間中は始業時間、終業時間に変動あり。
休 暇	年次休暇：一年次10日、二年次11日 その他の休暇：リフレッシュ休暇（6日間）、忌引休暇など
日 当 直	ひと月当たり5回程度
社会 保 険 労 働 保 険	健康保険（国家公務員共済組合）、公的年金（厚生年金） 労働者災害補償保険法の適用 有 国家・地方公務員災害補償法の適用 無 雇用保険 有 医師賠償責任保険の扱い 病院で加入（全員加入）
健康 管 理	健康診断 年2回実施 各種予防接種 実施
そ の 他	外部の研修活動、学会、研究会等への参加可能 (学会、研究会等への参加費用の一部支給あり) 研修医室：有 研修用宿舎：有 保育施設：有（定員制） ※2年間の初期臨床研修期間中は、アルバイトは禁止とする。

プログラム名称		定員数	1年次								2年次													
基本プログラム			10	総合内科 12週間 (必修)		外科 8週間 (必修)		麻酔科 12週間 (必修)		産科 婦人科 4週間 (必修)		専門内科 12週間 (必修)		小児科 4週間 (必修)		協力施設 地域医療 4週間 (必修)	精神科 4週間 (必修)	救急科・ICU 4週間 (必修)	総合診療科 (一般外来) 4週間 (必修)	選択科目 36週間				
研究医を目指す人のためのプログラム			3	総合内科 12週間 (必修) 一般外来研修4週間を含む		外科 4週間 (必修)	麻酔科 4週間 (必修)	産科 婦人科 4週間 (必修)	専門内科 12週間 (必修)		精神科 4週間 (必修)	救急科・ICU 4週間 (必修)	小児科 4週間 (必修)	選択科目 4週間	協力施設 地域医療 4週間 (必修)	選択科目 48週間								
ハイブリッドプログラムA			2	総合内科 12週間 (必修)		必修科目 4週間 【外科・産婦人科・小児科】	精神科 4週間 (必修)	麻酔科 12週間 (必修)		救急科・ICU 4週間 (必修)		専門内科 12週間 (必修)		総合診療科 (一般外来) 4週間 (必修)	協力施設 地域医療 4週間 (必修)	救急科 4週間	必修科目 8週間 【外科・産婦人科・小児科の未修了分】		選択科目 36週間					
ハイブリッドプログラムB	津島市民病院コース		1	内科 24週間以上 (必修)				協力型臨床研修病院 救急科 12週間以上 (必修)				外科 12週間以上 (必修)				協力施設 地域医療 4週間 (必修)	精神科 4週間 (必修)	小児科 4週間 (必修)	産科 婦人科 4週間 (必修)	総合診療科 (一般外来) 4週間 (必修)	選択科目 32週間			
	岐阜県立多治見病院コース		1	内科 20週間以上 (必修)				小児科 4週間以上 (必修)	協力型臨床研修病院 救急科 12週間以上 (必修)				外科 12週間以上 (必修)				協力施設 地域医療 4週間 (必修)	精神科 4週間 (必修)	内科 4週間 (必修)	産科 婦人科 4週間 (必修)	選択科目 36週間			
	江南厚生病院コース		1	内科 16週間以上 (必修)		内科（推奨） または 選択科目 8週間以上		救急科 6週間以上 (必修)	麻酔科 6週間（推奨） (4週間必修)	外科 6週間（推奨） (4週間必修)		選択 科目 (小児科、産婦人科も選択可) 10週 間程度		協力施設 地域医療 4週間 (必修)	精神科 4週間 (必修)	小児科 4週間 (必修)★	産科 婦人科 4週間 (必修)★	選択科目 36週間 (一年次で内科の研修期間が24週間に満たない場合は、 24週間に達するまでの分の内科研修を必修で行う)						
周産期プログラム	小児科	小児科 重点コース	4	総合内科 12週間 (必修)		外科 8週間 (必修)		麻酔科 12週間 (必修)		産科 婦人科 4週間 (必修)		小児科 16週間（必修） うち4週間は協力病院における研 修が可能		協力施設 地域医療 4週間 (必修)	精神科 4週間 (必修)	救急科・ICU 4週間 (必修)	総合診療科 (一般外来) 4週間 (必修)	周産期 8週間 (必修)	専門内科 12週間 (必修)		選択科目 16週間			
		協力型臨床研修病院																選択科目 4週間						
	産婦人科	産婦人科 重点コース		総合内科 12週間 (必修)		外科 8週間 (必修)		麻酔科 12週間 (必修)		産科婦人科 16週間 (必修)				小児科 4週間 (必修)	協力施設 地域医療 4週間 (必修)	精神科 4週間 (必修)	救急科・ICU 4週間 (必修)	総合診療科 (一般外来) 4週間 (必修)	周産期 8週間 (必修)	専門内科 12週間 (必修)		選択科目 16週間		
		協力型臨床研修病院																	選択科目 4週間					
	産婦人科重点 たすきがけコース	総合内科 12週間 (必修)		外科 8週間 (必修)		麻酔科 12週間 (必修)		産科婦人科 16週間 (必修)				小児科 4週間 (必修)	地域医療 4週間 (必修)	精神科 4週間 (必修)	救急科・ICU 4週間 (必修)	総合診療科 (一般外来) 4週間 (必修)	周産期 8週間 (必修)	専門内科 12週間 (必修)		選択科目 12週間		選択科目 4週間		

ハイブリッドプログラム A	1年次に大学病院、2年次に以下の協力型臨床研修病院で研修を行う。 ◎豊田厚生病院 ◎名古屋記念病院 ◎春日井市民病院 ◎名古屋掖済会病院 ◎大同病院（だいどうクリニック） ◎国家公務員共済組合連合会東海病院
ハイブリッドプログラム B	1年次に以下の協力型臨床研修病院、2年次に大学病院で研修を行う。 ◎津島市民病院 ◎岐阜県立多治見病院 ◎江南厚生病院
周産期プログラム	小児科医または産婦人科医を目指す人のための専門的なプログラムで、小児科、産婦人科についてそれぞれ2つのコースを設けている。両科とも2つのコースの1年次カリキュラムは同じであるが、たすきがけコースを選択した場合、2年次のうち8ヶ月間、協力型臨床研修病院で研修を行う。
小児科重点コース	2年次のうち2ヶ月間、以下の協力型臨床研修病院で小児科研修を行うことができる。 ◎名古屋掖済会病院 ◎春日井市民病院 ◎中部ろうさい病院 ◎中京病院 ◎豊田厚生病院 ◎名古屋記念病院
小児科重点たすきがけコース	2年次のうち8ヶ月間、以下の協力型臨床研修病院で研修を行う。 ◎名古屋記念病院 ◎春日井市民病院
産婦人科重点コース	2年次のうち2ヶ月間、以下の協力型臨床研修病院で産婦人科研修を行うことができる。 ◎名古屋掖済会病院 ◎春日井市民病院 ◎中部ろうさい病院 ◎岐阜県立多治見病院
産婦人科重点たすきがけコース	2年次のうち8ヶ月間、以下の協力型臨床研修病院で研修を行う。 ◎春日井市民病院 ◎岐阜県立多治見病院
研究医を目指す人のためのプログラム	研究分野への進路志向の高い方に向けて、基本的臨床能力の習得を目指す研修とともに、配属予定の講座、もしくは出身大学の講座の責任者の推薦のもと、研修カリキュラムに沿って研究に専念する期間が最大48週間選択することが可能なプログラムです。研究医を目指す方に初期臨床研修を諦めてほしくない。もちろん研究も諦めてほしくない。そんな思いから生まれた、名大病院の新しいプログラムです。

総合内科研修	総合診療科病棟で8週間、老年内科病棟で4週間行う。
専門内科研修	消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科から4週間単位で選択する。
外科研修	消化器外科で8週間行う。 ※東海病院で最大2週間研修を行うことができる。
小児科研修	名大病院または協力型臨床研修病院で行う。ただし、1年次に協力型臨床研修病院で小児科研修を行う場合は、麻酔科研修を事前に終了していることとする。
救急外来研修	2年間の全研修期間を通して行う。 平日：17時15分～翌8時 (ただし、救急外来へは17時に集合) 休日・祝日：8時～翌8時 (ただし、日直と当直が17時に交代)

■ハイブリッドプログラム A とハイブリッドプログラム B を除く各プログラムの選択科目において、原則4週間単位で以下の協力型臨床研修病院での院外研修が可能。なお、院外研修は最大16週間（地域医療研修を含む）までとする。

救急医療研修	◎名古屋掖済会病院 ◎日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 ◎中東遠総合医療センター ◎大同病院
外科・整形外科研修	◎国家公務員共済組合連合会東海病院
小児科研修	◎名古屋掖済会病院 ◎春日井市民病院 ◎中部ろうさい病院 ◎中京病院 ◎豊田厚生病院 ◎名古屋記念病院
産婦人科研修	◎名古屋掖済会病院 ◎春日井市民病院 ◎中部ろうさい病院 ◎岐阜県立多治見病院
精神科研修	◎愛知県医療療育総合センター中央病院

名大病院は、総合診療能力を養うことができる研修プログラムを提供し、総合内科、救急医療、周術期医療（麻酔科）など各領域の専門家が研修医指導を行っています。高度な医療を安全に提供するための国内有数の医療安全体制が研修をサポートし、研修医は医療安全に対する高い意識を持って研修に取り組んでいます。

総合診療科

講師
佐藤 元紀 先生
2003年
名古屋大学卒



難しい症例の患者さんと、 丁寧に向き合える環境です。

総合診療科は、難しい症例に対して、あらゆる治療法を検討したうえで患者さんに最適な治療を行っています。この場合、症状や検査結果から狙いを定めて、適切な診断をくだしています。このような一連のプロセスを早くから経験すると、別の難しい症例にも対処できる応用力が身につきます。また、市中病院では10人程度の患者さんを受け持つのに対して、名大病院では3~4人と少ないため、目の前の症例にじっくりと向き合え、適切な治療法を見出すことができます。総合診療科での研修は、応用力に結びつく経験を積める最適な環境と言えます。さらに、医学教育の専門家でもある指導医が、研修医の皆さんの状況に応じて適切な指導を行い、将来自ら考え、決定できる医師になれるようサポートしています。実は私自身も、じっくりと学べる名大病院を研修先として選択し、貴重な経験を積むことができました。ぜひ皆さんも名大病院で研修されることをおすすめします。

麻酔科

助教
安藤 貴宏 先生
2004年
浜松医科大学卒



3カ月の研修で100例以上の症例！ ハードけれども実力は倍増。

手術にとって必要不可欠な「麻酔」。麻酔科で学ぶ患者さんの全身管理は、将来、どの診療科の専門医を目指すとしても、必ず習得しておきたい重要なスキルです。特に名大病院では手術件数が多い上に、一般病院では経験が不足しがちな重症例も数多く扱います。麻酔科研修は、そんな環境の中で3カ月間、麻酔管理、そして全身管理を体得するカリキュラムとなっています。麻酔科の研修中、皆さんが経験する全身麻酔症例数は、100例以上にのびります。正直、大変ですが、医師としてのキャリアを積んでいく上で極めて貴重な経験になるのは間違いありません。さらに麻酔科は、手術麻酔の他、集中治療、ペインクリニック等の麻酔関連領域を担当しており、医学教育や医療全体についても熱心に考え、真剣に取り組む多くの指導医がいます。この多くの指導医を通じ、様々な考え方に触れられます。充実した指導体制のもと、研修医自身にも主体的に動いて頂くように導いています。他施設では経験できない有意義な研修になることは間違いありません。ぜひ皆さんも名大病院で実力を磨いてみませんか。

救急科・ICU

講師
山本 尚範 先生
2007年
大阪市立大学卒



目の前の患者さんを 死なせない力を教育します。

当院の救急科は1次から3次の症例を受け入れており、愛知県の救急医療の中核です。Common Diseaseから最重症症例まで幅広く受け入れており、経験できない症例はありません。初期研修医の個々の技量に応じて、救急専門のスタッフが共に診療したり、無理のない範囲で任せたりしながらER業務を行います。あまり意識されていませんが、ER診療はエビデンスを実践する絶好の機会です。また診察技術などのアートと捉えられる一面も申し分なく必要とします。エビデンスとアートと豊富な症例、これら全てを経験できることを約束します。そして、名大病院救急科には、何事も全員で活発に話し合い、研修医や若手医師に対する積極的な教育を重んずる風土があります。皆さんが名大病院での研修を選択されることを、スタッフ一同心よりお待ちしております。

患者安全推進部

副病院長 教授
長尾 能雅 先生
1994年
群馬大学卒



研修医のうちから、患者安全の ポリシーを身に付けましょう。

名大病院では、「患者安全推進部」を設置し、医療のさまざまなリスクを低減する活動を行っています。現在、医師・看護師・薬剤師・弁護士などの専従職員を中心に、総勢18名のスタッフが関わり、国内最高水準の患者安全体制を敷いています。研修医の皆さんは、インシデント検討会や、M&Mカンファレンス、患者安全コア会議などに積極的に参加していただくことになります。また、全国で唯一、他の科と同じように、患者安全推進部をローテーションすることも可能で、患者安全活動に触れられる機会が沢山用意されています。研修医の段階から患者安全の重要性を知り、医療事故の防止策や改善策を身につけることはとても大切です。皆で一丸となって、患者さんの安全を守りましょう。

研修医はローテート研修を積みながら、自分の興味や志向性をもとに自主的に進路を決めていきます。
丁寧な指導と快適な研修環境の中で、安心して研修に打ち込めます。

1年次 研修医

2024年 4月
採用

S先生

2023年度
大阪医科薬科
大学卒



現場で積極的に挑む研修医に

大学病院での研修は学生実習の延長線上と思われがちですが、名大の研修は全く違います。複数の既往を持つ患者さんが多く、1人の患者さんを診るだけで多様な疾患、治療方法を学ぶことができます。救急外来では一般的な症例も多く経験でき、流れ作業にはならず、納得するまで丁寧に診ることが可能です。1つの主訴に対処するだけでなく、分野横断的に学べる環境が整っています。独学で答えを見つけていく研修も貴重ですが、すでに最良の答えを知るロールモデルとなる先生がすぐ近くに

いる環境で研修を受けることは、初期研修中だけでなく、3年目以降、専門分野に進んだ際にも必ず役立つはず。また、国立病院であるため、患者さんは大きな期待を抱いて受診、治療に訪れます。研修医であっても、1人の責任ある医師として見られ、院外病院での研修においても、同様の期待が寄せられています。ぜひ名大で、安定した「守り」の研修ではなく、積極的に挑む「攻め」の研修に取り組み、“できる研修医”と一緒に目指しませんか。

■ローテーション（基本プログラム）

ターム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1年次	産婦人科	小児科	総合診療科	総合診療科	循環器内科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	老年内科	消化器外科 (内 東海病院2週間)	呼吸器内科	腎臓内科	

研修医の一日

小児科



研修医の一日

消化器外科



希望に合わせた柔軟な研修

私は将来の診療科を内科系と精神科で迷っており、どちらも大変充実している名大病院での研修を選びました。名大研修の特色は、診療科を問わず豊富な指導医と、柔軟な研修です。1年次に必修科を中心に研修し、2年次に希望の診療科・市中病院を選択します。総合診療科では、主担当医として外来診療から入退院まで一貫して患者さんの診療に関わります。麻酔科では、全身管理を学びつつ、静脈・動脈穿刺、挿管等の手技を数多く経験します。救急外来では、症例数は多くはありませんが、一症例ごとに

緊急性の判断、必要な検査や治療を自分で言い、上級医のフィードバックも得られるため、とても診療力がつきます。同期は、東海圏のみならず様々な大学出身者がいます。その中には、医学研究を志す者、外国の大学の卒業生、子育て中の同期などもあり、それぞれの興味分野やライフスタイルにあわせた研修ができます。交通アクセスも良く、近くには繁華街や緑豊かな公園、古墳などもあり、研修に集中できる環境が整っています。ぜひ一度見学に来てください！

■ローテーション（基本プログラム）

ターム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1年次	消化器内科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	産婦人科	糖尿病・内分泌内科	EM-ICU	腎臓内科	総合診療科	総合診療科	総合診療科 一般外来	老年内科	精神科
ターム	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
2年次	消化器外科	消化器外科	検査部	皮膚科	脳神経内科	地域医療 宮古病院	小児科 名古屋記念	老年内科	眼科	ICT	整形外科	リハビリ テーション科	

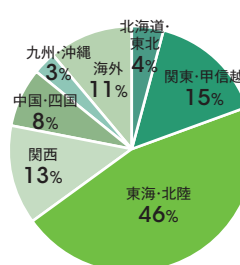
研修医の出身大学

名大病院の研修医は全国各地の大学から集まっており、他大出身者も研修を行いやすい雰囲気があります。

■出身大学

旭川医科大学、岩手医科大学、東北大学、獨協医科大学、埼玉医科大学、東京医科大学、東京慈恵会医科大学、東京大学、日本大学、北里大学、新潟大学、山梨大学、信州大学、富山大学、金沢医科大学、福井大学、岐阜大学、愛知医科大学、藤田医科大学、名古屋大学、三重大学、滋賀医科大学、京都大学、関西医科大学、大阪医科薬科大学、神戸大学、兵庫医科大学、奈良県立医科大学、川崎医科大学、山口大学、香川大学、高知大学、大分大学、宮崎大学、琉球大学、白求恩医科大学（中国）、中国医科大学（中国）、プレーヴェン医科大学（ブルガリア）、ボズナン医科大学（ポーランド）、国立センメルweis大学（ハンガリー）、復旦大学（中国）、蘭州大学（中国）、北華大学（海外医学院）、同済大学（中国・上海）、ハルビン医科大学（中国）

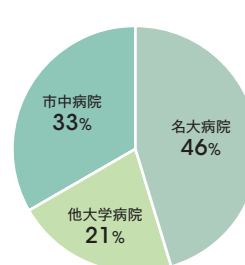
研修医の出身大学所在地域 (2020~2024年度入職者)



初期研修後の進路

当院で初期研修を修了した研修医の約半数が、専攻医、大学院生などとして当院に残っています。一方、当院初期研修で医師として求められる臨床能力を身に付けた後、他の大学病院や市中病院において活躍している研修修了者も多くいます。

初期研修修了後の進路 (2019~2023年度修了者)



豊富な勉強会

研修医は、初期研修において必修の剖検検討会、M&M (Mortality & Morbidity) カンファレンスはもちろん、腹部エコーセミナー、心エコーセミナーなど、卒業臨床研修・キャリア形成支援センター所属の教育専任教員が開催する勉強会にも積極的に参加しています。



研修医室



研修医一人一人にブーススペースを提供しています。研修医室内には、電子カルテ端末も設置しており、デスクワークに適した環境です。

研修医宿舎（看護師宿舎A棟）

病院敷地内の 研修医宿舎

希望者は入居可能です。最寄駅まで徒歩5分、コンビニは敷地内にあり、ショッピングセンターも徒歩5分圏内にあるため、快適に過ごせる場所に立地しています。



▲研修医宿舎（看護師宿舎A棟）

※研修医の年次は2024年度時点

卒後臨床研修・キャリア形成支援センターは、初期研修だけでなく、医師をはじめとするあらゆる医療職の生涯にわたるキャリア形成をサポートしています。

専任の医師とスタッフが、初期研修の内容はもちろん、キャリアや生活面の相談にも対応します。

センターの特長

- 1 初期研修プログラムはセンターが一括管理しています。
- 2 研修医は初期研修中の2年間、センターに所属し、非入局でフレキシブルな初期研修を行うことができます。
- 3 センター所属の医師と事務職員が、初期研修に関することだけでなく、研修医に対してあらゆるサポートを行います。
- 4 センター所属の教育専任教員を11診療科に配置し、診療科での研修医指導はもちろん、研修医対象のセミナーや勉強会も数多く開催しています。
- 5 初期研修だけでなく、後期研修や生涯研修まで、医師としての生涯にわたるキャリア形成をサポートします。



卒後臨床研修・キャリア形成支援センター長
教授

錦織 宏

1998年 名古屋大学卒



東海地区最大の医師ネットワーク拠点で人脈作りを

皆さんは医師として働き始める最初の2年間、喜怒哀楽も含めた様々な感情の荒波に晒されます。臨床現場には患者さん一人一人のライフストーリー（人生史）と病いのナラティブ（物語）があり、学生時代に身につけた知識と技能だけで患者さんの抱える苦悩に対峙するには、皆さんがあまりにも未熟だからです。ただその未熟さがむしろ臨床現場では力になりうるのだということも、研修医として過ごす2年間で実感することになります。国家試験で問われることのあまりない、でもとても大事な臨床マインドを、名大病院に所属する指導医だけでなく、看護師・薬剤師・検査技師・放射線技師・事務職員など、皆さんにとっての社会人の先輩と接する中で、涵養していきましょう。

研修病院としての名大病院の強みは、名大方式とも言われた非入局スーパーローテート研修の歴史、世界で活躍する医学研究者との近い距離、世界標準の質の医療を提供している臨床現場、東海地区最大規模のメディカルxRセンター（旧クリニカルシミュレーションセンター）など、枚挙に^{いとま} 遑がありませんが、何といっても誇るべきはその構成員だと思っています。目標にできるような指導医と出会え、病院の中で自分なりの居場所を持ちながら臨床研修を行うことができるような環境を名大病院では準備しています。志のある皆さんとの出会いを楽しみにしています。

研修医指導体制の
さらなる充実のため

11診療科に
教育専任教員
を配置

名大病院では、卒後臨床研修・キャリア形成支援センター所属の教育専任教員を11診療科に配置して、屋根瓦方式の研修医指導体制の充実を図っています。

教育専任教員は、研修医の指導や各診療科の研修コーディネートだけでなく、診療科の枠を超えた横のつながりを生かして、研修医のニーズに応じたセミナーや勉強会などを企画・実施しています。全員が指導医資格を有し、研修医の良き相談相手にもなっています。

勉強会



教育専任教員
ミーティング



毎月2回教育専任教員が集まってミーティングを開催し、研修医対象セミナーの企画や各診療科の研修医教育について幅広く検討・意見交換を行っています。

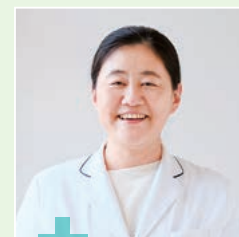
【臨床医にとっては診療の技術・知識も重要ですし、「良い医療者とは何か」といった臨床哲学的な模索も大事です。一緒に考えていきましょう。】



小笠原 一能

教育専任教員（精神科）
1995年 京都府立医科大学卒

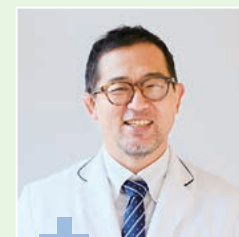
【最先端医療の中で基礎からじっくり学びませんか。わたしたち教育専任教員があなたの研修をサポートします。】



村松 友佳子

教育専任教員（小児科/総合周産期母子医療センター）
2000年 名古屋大学卒

【名大研修のいいところは、熱い指導陣！豊富で幅広い症例数！いろんな研修ニーズにこたえられる懐の広さ！手厚く支えてくれる事務の皆さん！です!!】



高見 秀樹

教育専任教員（消化器外科）
2003年 名古屋大学卒

【初期臨床研修は医師としての素地を作る大切な2年間です。充実した研修をして将来へのキャリアの基礎を一緒に築いていきましょう。】



木村 友和

教育専任教員（泌尿器科）
2005年 筑波大学卒

【高度な専門性に裏打ちされた質の高い臨床研修は大学病院ならではの1どっぶり浸かって、2年後に大きく羽ばたいてください。】



坪井 崇

教育専任教員（脳神経内科）
2005年 名古屋大学卒

【ただたくさん症例を経験するだけでは獲得できない洗練された臨床能力を一緒に身に付けましょう!】



近藤 猛

教育専任教員（総合診療科）
2006年 名古屋大学卒

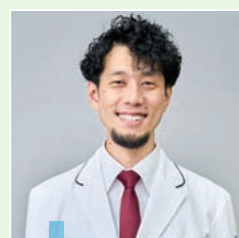
【充実した指導体制に対し一人一人に目が届く人数での研修。ここまで恵まれた体制は全国でもここだけです。一緒に魅力的な研修を作っていきましょう。】



尾上 剛史

教育専任教員（糖尿病・内分泌内科）
2007年 名古屋大学卒

【研究室での学生実習が忘れられないあなた!そのワクワクを全力で応援するプログラムが名古屋大学にはあります。研究もおべも救急も。欲張りさん大歓迎です。】



馬場 泰輔

教育専任教員（腫瘍外科）
2007年 名古屋大学卒

【一般臨床、救急対応はもちろん、先端医療、基礎研究、地域医療ect.なんでも学んで選ぶことができます!特に進路にお悩みの方、ぜひどうぞ。】



金 聖泰

教育専任教員（血液内科）
2009年 名古屋大学卒

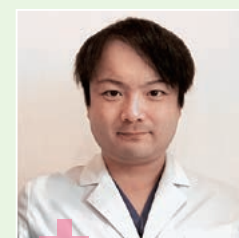
【当院は臨床・研究いずれにおいても充実した環境が整っております。研修医の先生の理想的な研修が実現できるようにサポートさせて頂き、すので充実した研修生活を楽しんで下さい。】



古川 勝也

教育専任教員（血液内科）
2011年 奈良県立医科大学卒

【基礎医学から臨床実践への橋渡し研究と高度な各科専門性。名大ならではのトランスレーショナルな臨床教育を充実した指導体制でサポートさせて頂きます!】



吉原 雅人

教育専任教員（産婦人科）
2012年 名古屋大学卒

【医師としてのキャリアはこれから数十年続いていきますが、医学生から初期研修医の時ほど「創的に」変化（進化）する時期はないと思います。貴重な医療の駆け出しをぜひ私たちと一緒に学びませんか?】



木村 武司

病院助教（専門分野：総合内科、小児科、医学教員）
2007年 福島県立医科大学卒

センター
専任

病院見学のご案内

名大病院の病院・研修見学は、一人ひとりに合わせたオーダーメイドです。
さまざまなご要望にお応えしていますので、お気軽にご相談ください。

お申込方法

卒後臨床研修・キャリア形成支援センター
Web サイト

<https://med2.nagoya-u.ac/>



- ① 左の QR コードを読み取り、
Web サイトへアクセス
- ② 「病院見学の申込み」をクリックし、
申込フォームに必要事項を入力
- ③ **受付完了!**
病院見学担当者から、メールで詳細を
ご連絡いたします

2026 年度入職 研修医 採用試験日程

第1回 2025年
7月18日(金)

応募受付締切 7月9日(水) 必着

第2回 2025年
7月20日(日)

応募受付締切 7月9日(水) 必着

○出願手続(必要書類)：研修医願書兼履歴書(所定様式)、卒業(見込)証明書、
成績証明書、健康診断証明書、配属予定の講座、もしくは
出身大学の講座の責任者の推薦状(研究医を目指す人
のためのプログラム希望者のみ)

○選考方法：書類、筆記試験、面接

○選考結果：全国マッチングシステムによる

詳細は卒後臨床研修・キャリア形成支援センターWebサイトに掲載します。



名古屋大学医学部附属病院 卒後臨床研修・キャリア形成支援センター

〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65

TEL:052-744-2644 FAX:052-744-2644 E-mail:meidai-kenshu@med.nagoya-u.ac.jp